



暮らしの未来をともにつくる

Life Design Report 2023

～ 地域をつなぐ、未来をつむぐ ～











・経営理念・

イオンモールは、地域とともに「暮らしの未来」をつくるLife Design Developerです。

イオンモールは、「地域とともに“暮らしの未来”をつくる」ことを
経営理念に掲げています。
持続可能な社会の実現に向けて、
企業市民として地域・社会の発展と活性化に貢献する
多様な活動を推進しています。
また、さまざまな体験を提供するハピネスモールの活動を通じて、
社会課題を解決しながら新たな価値創造をめざす
取り組みもおこなっています。

・企業としてめざす姿・

ひと、社会、地球の未来をいつまでも。

ハートフル・サステナブル
ひと、社会、地球の未来をいつまでも。

×

ハピネスモール

「企業」としてのイオンモール
＜取り組み＞

「施設」としてのイオンモール
＜体験の場＞

【ハートフル・サステナブルとは】
Life Design Developerの経営理念のもと、企業市民として、持続的な社会の実現に向けて、地域・社会に貢献・活性化する取り組みを「ハートフル・サステナブル」としました。当社だけでなく、お客さま、地域社会、パートナー企業さま、株主・投資家さまとともに、より良い社会をめざします。



イオンモール豊川

イオンモールは、地域共創業へ。

本年、新たに2030年ビジョン「イオンモールは、地域共創業へ。」を宣言しました。
地域共創業とは、**同じ志をもつすべてのステークホルダーをつなぎ、持続可能な地域の未来につながる営みを共創する**という、企業としての、またイオンモールグループ従業員の一人ひとりの意思と価値軸を示しています。

本レポートでは、当社従業員が想いを同じくする人々をつなぎ、事業を展開するすべての国・地域の課題に対してともに解決策を創り出し、それぞれの地域にとって最適な暮らしの未来を実現していく動きをお伝えしていきます。

2030 ビジョン動画 ▶
https://www.aeonmall.com/ir/vision2030/







暮らしの未来をともにつくる

Life Design Report 2023

～ 地域をつなぐ、未来をつむぐ ～









Contents

02 経営理念･企業としてめざす姿

04 -2030ビジョン-
イオンモールは、地域共創業へ。

地域コミュニティと共創する

08 特集
共感･共創から生まれるまちとは？
～イオンレイクタウンの取り組みから～

社会･地域環境のサステナビリティを共創する

12 地域の課題に寄り添い
解決をめざす

16 <まちのACTION！>
－1－ エネルギーを「使う」から
地域・お客さまとともに「創る」へ

20 －2－ モールからはじまるサーキュラーエコノミー

24 －3－ モールがつなぐ地域と“いきもの”

同じ志をもつステークホルダーと共創する

28 イオンモールで働く一人ひとりが
Life Designの主人公

32 地域の生活者と向き合う
各地のLife Design Producer

36 イオンモールの重要課題
（マテリアリティ）

38 社長message
「Life Design Report 2023」を
お読みいただいた皆さまへ

39 会社概要













編集方針

本レポートでは、イオンモールが掲げる「2030ビジョン」実現に向けたさまざまな実践事例を紹介しています。イオンモールで働く一人ひとりがステークホルダーとの共感・共創を通じて地域の未来をつくる姿をご覧ください。

対象期間

2022年3月1日から2023年2月28日
対象期間外の情報に関してはそのつど表記しています。また役職名は2023年2月末現在のものです。

対象組織

イオンモール株式会社およびイオンモール株式会社に属するグループ企業とその管理する施設が原則となります。

Lake and Peace × SAITAMA Prefecture × AEON MALL

共感・共創から生まれるまちとは？

～イオンレイクタウンの取り組みから～

テーマ：みんなで育む、まちの新しい可能性

古くから水郷のまちとして知られる埼玉県越谷市には、日本有数の規模を誇る大相模調節池があり、越谷レイクタウンのシンボルにもなっています。水辺の環境を地域の資源ととらえ、地域の魅力を発信していくために、自治体とパートナー企業、イオンモールがどのように連携していくべきなのか、語り合いました。

レイクアンドピース（株）
代表取締役社長
畔上 順平さま

埼玉県 河川環境課
石野 剛史さま

イオンモール（株）
イオンレイクタウン
活性化推進 部長
重松 雅人



お互いにアイデアと力を出し合って水辺の魅力を高めていった背景とは

畔上さま　越谷市の大相模調節池は、30年以上前から計画があったものです。私はずっと越谷市民なので、子どものころに見た人工池と新しい都市の予想図にとても夢を感じていました。その後、2014年に調節池が竣工し、越谷商工会議所が主催する【水辺の祭典】というイベントに事業者として参加していました。【水辺の祭典】は2018年に終了することになったのですが、水辺の利活用には大きな可能性を感じていたので、地元の有志7～8名を起点にイベントを検討するようになったのです。重松さんに相談を持ちかけたのは、そんなときでした。

重松　商工会議所の会議などでお会いする機会はありましたが、畔上さんと直接話をしたことで、強い熱意を感じました。イオンモールとしても豊かな水辺という地域資産を有効に活用したいと考えていたのですが、そのためには、**地域をよく知り、発信力のあるパートナーが重要と考えていましたので、「出会えた」という想い**がありましたね。

石野さま　その少し前から、埼玉県でも越谷市とともに水辺の活用を盛り上げたいと考えていました。国の規制緩和で河川敷地を商業利用できる仕組みがあり、やるならイオンレイクタウン※1しかないと確信していたので、市とイオンモールにアプローチしていきました。しかし、具体的な動きになろうかというころに、私は異動で水辺の業務を離れることになってしまって。その間、畔上さんたちが尽力してくれたおかげで、大きな進捗につながったと感じています。

畔上さま　2019年に実行委員会を組織し、市の後援を受け、イオンレイクタウンにサポートいただいて「Lake and Peace※2 2019」というイベントを開催しました。すると、想定の数十倍の市民の参加があったのです。**出店した地域の事業者は普段とは異なるレベルの集客力を実感することになり、水辺のイベントに訪れたお客さまがモールにも足を運ぶというWin-Winの関係も生まれ**、この成果を一過性のものにせず継続していきたいと思うようになりました。2020年はコロナ禍に見舞われましたが、世間が落ち込んでいるときこそ水辺の魅力を感じてほしい、ここでやめたら復活は難しいと考えて、ピクニックイベントとして開催しています。それ以降も、その時々のガイドラインに対応しながら内容を検討し開催にこぎつけ、**2022年は2日間で90以上の事業者が出店し、15,000人**もの来場がありました。



石野さま　私も地元が越谷なので、2019年のイベントにはスタッフとして参加していたのですが、そのときに民間事業者との連携をさらに盛り上げたいと想いを新たにしました。また、**コロナ禍で行動制限があるときこそ、水辺で過ごすことの価値を市民があらためて意識するきっかけになったと実感**しました。その後、再びの異動で現職となり、川の再生事業の一環として、民間事業者などと県と市が連携して地域振興を図る事業「Next川の再生・水辺 de ベンチャーチャレンジ」を2021年からスタートさせました。

重松　その事業の公募が2022年にあり、イオンモールとレイクアンドピース共同での提案内容が受け入れられて、市とイオンモールが「（仮称）大相模調節池河畔水辺活用に関する基本協定」を締結する運びとなりました。締結式は埼玉県知事と越谷市長、当社社長が一堂に会し、地域のグリーンストックの活用意義について、意見交換がなされました。現在は「レイクタウン大相模調節地河畔・芝生公園 地域共創事業※3」として展開しています。

※1: イオンレイクタウンとは

AEON LakeTown

大相模調節池のほとりに広がる、総敷地面積340,000㎡。kaze、mori、アウトレットの3棟からなる、日本最大級の商業施設です。

※2: Lake and Peaceとは

Lake and Peace

「レイクでピースに！レイクをピースに！」をテーマに、水辺の芝生エリアを活用して、さまざまな地域イベントを展開しています。

※3: レイクタウン大相模調節地河畔・芝生公園 地域共創事業について

【事業方針】

良好な水辺と都市空間の形成	大相模調節池をはじめ、既存ストックを活用し、より快適な都市空間の形成
にぎわいの創出	飲食店や売店等の施設整備のほか、水辺を活用したイベント等の企画・運営によるにぎわいの創出
地域との連携による魅力の向上	官民連携や市内事業者とのパートナーシップを構築し、水辺の魅力の向上
魅力の発信	水辺の活用等に関する情報を発信し、水辺や地域の魅力が広く認知され、共感を生む

【事業コンセプト】

Fit The Piece of LAKE

地域に散らばるたくさんの大切なPieceを集め、「越谷スタンダード」を生み出す水辺にぎわい拠点

多様な関係者との共感・共創には、丁寧なコミュニケーションが重要

畔上さま　イオンレイクタウンがオープンしたのは2008年、時を同じくして越谷レイクタウンのまちびらきがありました。住民にとっては、**イオンモールはパソコンのOSのような基盤となる存在**です。だからこそ、OSをどのように活かして**自分たちでどのようにアップデートしていけるのか**という感覚を持っています。

石野さま　イオンモールがこの場所を選んでくれてよかったと感じますね。越谷市は「水郷のまち」と呼ばれてきましたが、**調節池が単なる治水のためだけでなく、魅力ある目的地**となって人を呼び込む機能を発揮し、**年間5,000万人以上が訪れる場所**になっています。周辺の河川のことも含めて、全国に発信できる**越谷の文化になりつつある**と思います。



重松　OSというのは、アプリケーションやコンテンツがなければ機能しないものです。**水辺の環境という素敵な地域資源は重要なコンテンツとなり、コミュニケーションとネットワークが、その価値を最大化**します。たとえ有効なコンテンツが見つからなかったとしても、コミュニケーションによって地域の魅力や資産を見出していくことができる。そのプロセスが地域共創につながるのではないかと考えています。

畔上さま　共感・共創のプロセスには難しさもあります。県と市が積極的に動いてくれても、事業者の中に温度差があり、この池で何ができるのか、イオンモールと連携することでどんなことが展開し得るのかと疑問に感じる人もいます。そこにどのように伝えて理解と共感を醸成するかは、一番苦心している点です。

重松　その点で、**2022年12月から6回開催※しているレイクタウンミーティングの場は意味あるもの**だと感じています。一般的に言われるような住民説明会ではなく、常に窓が開いた自由な議論ができる場として、地域の皆さまの本音や前向きなご意見をお伺いできる貴重な機会になっています。大切なことは1回説明して終わりにせず、住民の方に何度も丁寧にお伝えしなければならないと感じますし、ディスカッションの内容が試験的なイベントや社会実験などの具体的な共創にもつながっています。

※2023年8月現在



まちに新しい価値を生み出すために。イオンモールに寄せる期待



畔上さま　まちが誕生して15年たちますが、周辺はマンションが多いことなどもあり、コミュニティの希薄さを感じる面はあります。また、図書館や学校、子育て施設といった公共施設や行政機関の少ないエリアなので、利便性の向上も課題です。自治体による整備ももちろん重要ですが、**イオンレイクタウンの中に官民連携で水辺を楽しみながら日常的に使える行政サービスの場ができるといいな**という期待があります。

石野さま　越谷レイクタウンのもつポテンシャルをさらに引き出し、**「真の日本一の水辺のまちなんだ」ということをイオンモールと一緒に発信できたらおもしろい**ですね。イオンモールがあることでまちがにぎわい、地域の事業者にも波及できるような仕組みが生み出せればと願っています。

重松　**企業だけでも、行政だけでも、市民だけでもできないことが、ともに関わり合うことで実現できるというのは、日本の新しい成長エンジンのひとつになり得る**のではないかと期待しています。商業開発はスピードが重要ですが、一方でまちをつくるという観点では、お住まいの皆さまの日々の生活に受け入れていただけるものでなければなりません。ゆっくりと着実に、長期的な取り組みを重ねることで、まちのイノベーションを生み出し、新しい価値観に感化された人々を増やしていくことにもつながるのではないかと思っています。







共感・共創のヒント

01

地域の“暮らしの未来”をより具体的に共有する

地域の事業者への説明やタウンミーティングの際には、めざす方向性やビジョン、成功のイメージを明確にするために、言葉での説明だけでなく具体的な絵なども用意。ときにはお互いの悩みも共有しながら、意識のすりあわせを何度も重ねていくことによって、同じ志をもつ仲間を増やすことができます。

02

“地域のパートナー”としてお互いの強みを活かし合う

地域の事業者や自治体は、その土地のもつ魅力や地元のニーズに深い理解があります。一方イオンモールは、体験の場としての施設や、全国各地で地域課題の解決に取り組んできたノウハウをもっています。これらを掛け合わせることで、地域にとっての「しあわせ」を生み出す具体的なアクションを導き出します。

03

モールを起点にして地域全体のにぎわいを生む

イオンモールのもつ集客力を活かすことで、行政機関をサポートするような官民連携の場や、モールの来訪者が地域に環流する動き、今までになかった人々の広がりを生み出すことができます。行政、市民、地域の事業者、イオンモールがともに関わり合うことで、地域全体のにぎわい創出が実現できます。

VOICE　Lake and Peace プロジェクトメンバーの声

地域で暮らす人・働く人をつなぐ場の提供と文化醸成を追求してほしい



藤田歯科医院 院長
藤田 融さま

にぎわいの拠点であるイオンモールは地域コミュニティにおける重要なインフラであり、ともに地域の課題解決に取り組もうとしていることをうれしく感じています。地域課題の認識はとても大切なので、タウンミーティングによって多くの体験が生まれるよう、これからも活動していきます。

“心躍る”場所をともにつくるためにこれからもイベントに参加したい



(株)エイチ・アイ・エス
イオンレイクタウン営業所
小貫 雄大さま

地域に根ざした店舗にしたいという想いから活動に参加しています。イベントでたくさんの方々が楽しんでいる姿を見て、イオンレイクタウンのポテンシャルの高さを実感しました。今後は当社とイオンレイクタウンの強みを掛け合わせたオリジナルイベントなどもできればと考えています。

地域の課題に寄り添い解決をめざす

地域に身近なイオンモールだからこそ、地域の抱える課題に向き合い、皆さまとともに解決できるはず。その想いを実践に移し、地域との共創へと導いた事例をご紹介します。

課題：障がい者の働く場と地域をもっとつなげたい…

IDEA & ACTION

モール館内に障がい者の就労施設を設置し、気軽に働くことができる場を提供！

北陸のスタートアップ企業と協働し、イオンモールとなみとイオンモール新小松内に就労継続支援Ｂ型事業所※を開設。施設の利用者さまやご家族さまにとって利用しやすく、地域の皆さまにも身近に感じていただける施設が誕生しました。



イオンモールとなみ

※就労継続支援Ｂ型事業所：雇用契約が難しい障がい者に就労の機会を提供する支援事業所

リハスワーク
Rehabilitation work REHAS


イオンモールとなみの南入口に隣接するリハスワーク

VOICE 利用者さまの声

- モールで働いている感じがしてうれしい。通うこと自体に自信がもてる。
- 一般的な作業所のイメージがなく明るい気持ちになる。
- 作業の休憩時間などに気晴らしに散歩でき、一息つける。
- リハスワークが終わったら、ATMの利用や食品などの買い物ができ、便利。

VOICE （株）リハスのスタッフの声

- 利用者さまの多くは外出頻度も低いため、モールに外出すること自体が高い満足感や価値につながっています。また、モール内で働くことはより自己肯定感を上げることにつながり、自己の可能性を見いだせる機会だと考えます。
- 当施設について興味をお持ちの障がい者さまが直接お見えになることも少なくありません。

AEON MALL ▶

近畿・北陸リーシング部
西上 徹



◀ （株）リハス

代表取締役
岩下 琢也さま



自分の目で見て、耳で聞いて、考えることから、課題解決が始まる

学生時代からボランティア活動などを通じて障がい者の就労を身近に感じており、障がい者とイオンモールの接点を探してリハスワークさまと出会いました。
物販専門店とは異なる手続きも多かったのですが、行政、リハスワークさま、イオンモールで連携できたことで、無事開業できました。この取り組みは、全国のモールへと広めていける可能性を感じています。

障がい者の「暮らしの未来」をともに創造したい

この提携を機会に、イオンモールの理念でもある「暮らしの未来」の創造、そしてESG経営の取り組みのよきパートナーとして当社も貢献できれば幸いです。「ハートフル・サステナブル」への取り組みとして、当社の障がいがある方への仕事の発注などもぜひお待ちしています！ ともに障がい者の「暮らしの未来」を創造できることを願っています。

課題：近隣の農科園区で育った農作物が、コロナ禍で販路を失い廃棄されている…

IDEA & ACTION

イベントを通じて新しい販路をつくり食品ロスを解消！

農作物に興味を持ってもらうため、お客さま向けに近隣の国家農業科学技術園区の見学会やブランド農作物の展示会を開催。さらに、農作物の買い取り・販売会を実施し、新たな販路を獲得できました。

農業体験と自然を楽しむ機会の創出



●子どもたちが家族とともに見学

30組の家族を募集し、担当者、専門店のメンバーとともに常熟国家農業科学技術園区を見学。農科園区の手がける「常優」ブランドやスマート水耕栽培技術、熱帯植物園を見学しました。

野菜売買の場を提供



●モール館内での野菜の売買

コロナ禍で需要が落ち込んでいた常熟農科園区の野菜の買い取り・販売を実施。モール従業員や専門店が有機野菜150kgを購入しました。購入した飲食店ではメニューにも活用されました。

果物ロスを解消



●バナナの木をまるごと引き取り

イオンモール会員に呼びかけ、常熟ブランドのバナナ「常優」の木をまるごと購入する機会を設けました。木には名札をつけ、職人が栽培。熟したバナナを収穫するイベントも実施しました。

AEON MALL ▶

イオンモール常熟新区
顧（グゥ・テンテン） 甜甜



◀ 江蘇常熟国家農業科学技術園区

管理事務室 産業発展部 科員
胡（フー・ショウホン） 暁紅さま



それぞれの問題意識や価値観を大切にし、チームワークで解決していく

2022年度より常熟市農業局と交流を始め、農科園区で先進的な科学農業研究をおこなっていることや児童教育を目的とした見学館があることを知りました。そこで、モールのお客さまにも農科園区での豊かな農業体験を提供できないかと考えたのが活動のきっかけです。農科園区内のスタッフや企業・大学研究チームの皆さまと討議するだけでなく、事前にお客さまへアンケート調査をおこない、活動内容に対しての率直な評価をいただきました。見学会では、農科園区の科学研究者を招いて直接説明していただくことができ、子どもたちの新たな好奇心を刺激する機会になったと感じます。
広大な敷地を有する農科園区には、まだまだ紹介すべきものがたくさんあります。また、野菜の買い取り・販売では流通や保存に改善の余地があると考えています。今後も協力関係を強化し、引き続き取り組んでいきます。

イオンモールと連携したからこそ、新しい販路が確立できた

見学会やバナナの木の引き取りなどの企画は、農科園区の特色ある栽培技術を知っていただく機会になっただけでなく、人と自然が一体となったいきいきとした学びを提供できたと感じています。イオンモールとの協働を通じて、より多くの人に農科園区にお越しいただき、売れ残りの野菜や果物の新たな販路確立も実現し、コロナ期間に抱えていた課題の改善につなげることができました。これからも、イオンモールと深く連携を続けていければと期待しています。

課題：環境に配慮したショッピングスタイルを広めたい…

IDEA & ACTION

モールを起点に、衣料品リサイクルを身近に感じられる活動を展開！

地元の学校・企業や専門店が参加するさまざまな活動やキャンペーンを展開。
多くの人が環境意識を身につけ実践するきっかけとなりました。




中学生がリサイクルについて学んだ特別授業と校内での衣料品回収

専門店（グローバルワーク）店長、リサイクル業を営む北勢商事（株）と協力し、東員第二中学校で、1年生約90名を対象に衣料品リサイクルについての特別出張授業を実施。その際に、中学校に衣料品回収ボックスを設置しました。




お客さまがリサイクルを実感できるモールでの衣料品回収・分別体験

東員第一中学校、東員第二中学校からボランティアを募り、モールで衣料品を回収するキャンペーンを実施。また、北勢商事（株）と協力し、持参した不要な衣料品をお客さま自身で分別する体験もおこないました。参加したボランティアは、当日の活動を通して、リサイクルの仕組みをお客さまに説明できるまでになっていました。

VOICE グローバルワーク東員店 店長の声

地域との関連が強いイオンモールに企画を実施いただいたことで、われわれも地域とつながりをもつことができました。今後も社会課題の解決に向け、イオンモールと協業していきたいと思います。

VOICE 参加した学生の声

- 身近なイオンモールで、SDGsへの取り組みや衣料品回収をしていることを初めて知りました。
- 今までは捨てていた衣料品を、リサイクルしようと思いました。

AEON MALL
イオンモール東員
営業担当 高橋 美羽



×



北勢商事（株）
専務取締役
服部 春樹さま（右）
現場統括課長
浜本 恭介さま（左）

多様な関係者との日々のコミュニケーションを大切にしたい

三重県の県民アンケートで、環境について考えずに購入商品を選択している人が約61％を占めているという実態を知りました。そこで、周辺地域と積極的に活動していた専門店（グローバルワーク）さまに相談するとともに、これまでも衣料品回収キャンペーンでご協力をいただいていた北勢商事（株）さまにもお声がけし、同じ目標をもつ三者で活動を始めました。今回の取り組みは私一人の想いだけではなく、日ごろから地域の発展について考えているパートナー企業の皆さまのお力添えがあり実現できたと感じています。

ともにリサイクルの輪を広げていく

東員第二中学校の生徒の皆さまは大変お元気で、授業中たくさんの質問をいただき、有意義な授業となりました。講話させていただいた側として、大変うれしく感じています。当社は創業以来、資源物の回収をおこなってきましたが、これからもSDGsの達成に向けて、日々取り組みを進めます。

課題：地元大学生が市外に流出してしまう…

IDEA & ACTION

大学生起業家向けのコンペを開催 優秀な企画は事業化も支援！

地元に残って活躍する若者を増やすための機会を創出。将来的な地域発展の礎を築くことができました。

信念を持って企画を実践し続ける

中国の武漢市は「大学生の城」と呼ばれるほど大学生数が多い一方、卒業後の流出が深刻な課題となっています。そこで、武漢市青年創業センターと湖北楚商連合会のアドバイスのもと、起業大会のコンペを通じて大学生の起業支援をおこなうことを決定しました。今後も継続的に企画を実施していく考えです。



AEON MALL
永旺夢楽城（湖北）商業管理有限公司 運営部
郭希（グォ・シー）（左） 骆巍（ルオ・ウェイ）（右）

×



湖北楚商連合会
文創分会会長
武漢鳳啸九天文化発展有限公司
董事長
湖北省青年企業家協会会員
陶（タオ・ジア） 佳さま






理念にもとづく行動に感動しました

武漢にある3つのイオンモールすべてから「お客さまを原点とし、顧客への配慮と尊重を貫く」という共通の理念が伝わってきました。一連の企画から、イオンモールが「人」を尊重し、地域発展に注目していることを深く感じました。これからも地元企業の一員として、イオンモールとともに武漢の地域発展に貢献していきたいと思います。

課題：災害時などに地域の防災拠点となる場が必要…

IDEA & ACTION

地元の防災ネットワークの要としてモールの施設を活用！

地域の多数の関係者が連携して情報やノウハウを共有。
防災への備えを強化しています。



AEON MALL
イオンモール白山
営業マネージャー 松尾 有希



×



白山市
総務部危機管理課 課長補佐
永井 靖信さま

地域を深く理解し行動する

白山市・消防署・警察署や、インフラ企業、近隣企業へ呼びかけ、防災担当者会議を実施しました。日ごろから関係者に対して業務を通じたコミュニケーションはとっていましたが、あらためて当店が安全な避難場所であることを発信できたとともに、意見交換をおこなう中で一緒に訓練していきたいというお声もいただきました。

「顔の見える関係」を築いていきたい

イオンモール白山には災害用トイレやガスバルクなど、万一の際に対応できる設備が充実しており、地元住民はもちろん、買い物客などの一時滞在者の避難場所として利用できることは、非常にありがたく、心強く思っています。これからも意見交換を重ね、さまざまな防災訓練を実施しながら、ともに地域の安全・安心を守っていきたいと思っています。

VOICE 意見交換の場で寄せられた声

- ドライブスルー方式（避難者の受付、安否確認）など、さまざまな訓練を継続して実施することが必要。（白山市）
- シネマ内の訓練や、火気使用専門店の消火訓練など、エリアごとの部分訓練を実施することが望ましい。（消防署）
- 防災計画など、今後ともモールと連携しながら進めていきたい。（横江町町内会）

まちの ACTION!
お客さまとつくる、サステナブルストーリーを。

私たちイオンモールは、地域の皆さまとともに持続可能な社会に向けた取り組みを進めています。それが、「まちのACTION!」です。
地域の暮らしに身近なイオンモールだからこそできることを
ひとつずつ行動に。そんな想いが込められています。

イオンモールが推進する環境に関する３つのこと

— 脱炭素社会の実現 —
イオンモール まちの発電所 Mall power plant

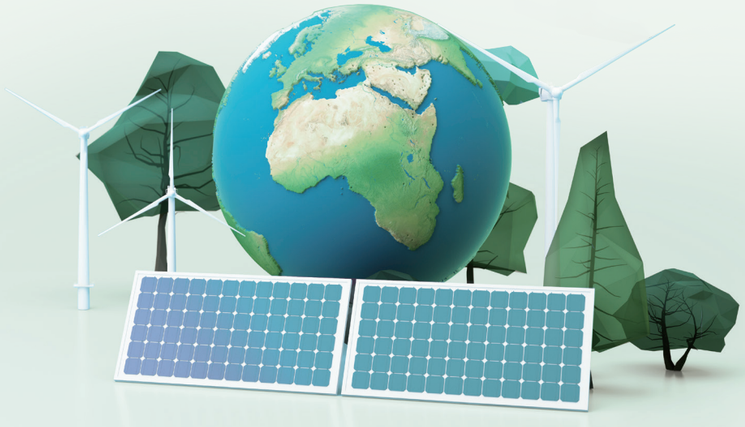
— サーキュラーモールの実現 —
イオンモール まちの資源循環 Circular mall

— 生物多様性の保全 —
イオンモール まちのいきもの+ Nature mall

イオンモール まちの発電所 Mall power plant

エネルギーを「使う」から 地域・お客さまとともに「創る」へ

イオンモールは、脱炭素社会の実現をめざし、再生可能エネルギーの活用を積極的に進めています。2040年には当社直営モールにおいて100%地産地消の再生可能エネルギー（約14億kWh/年）で運営することをめざし、さまざまな挑戦が始まっています。



お客さまとともに「創る」～V2AEON MALLを推進

EV放電でお客さまの行動を変える

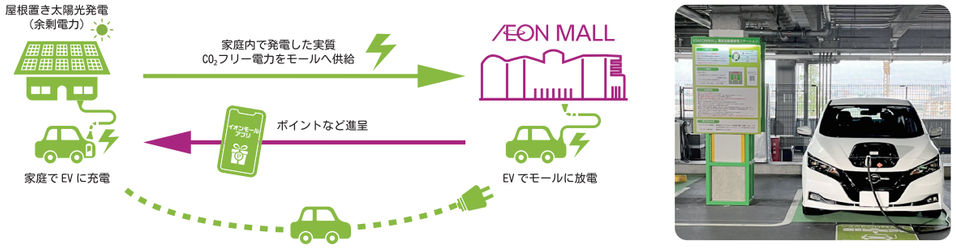
お客さまとともに脱炭素社会を実現するため、従来のV2H（車（Vehicle）から家（Home））から進化させたV2AEON MALL（車からイオンモール）を推進しています。家庭で発電した電力（余剰電力）を電気自動車（EV）でモールに放電。それによる環境貢献指数の見える化や放電量に応じたポイント進呈をおこないます。
参加型の再生エネルギー循環プラットフォームを創出することで、お客さまの環境意識を変え、行動変容につなげていきます。この取り組みをきっかけに、家庭でも再生可能エネルギーの選択肢が増え、地域の脱炭素化がさらに進むことをめざしています。

アプリを活用し、気軽な参加を促す

2019年から実施してきた実証実験の結果を踏まえて、2023年5月からイオンモール堺北花田、イオンモール堺鉄砲町、イオンモール橿原で「V2AEON MALL」のサービスを開始しました。
イオンモールアプリに「V2AEON MALL」の機能を追加し、スタンドに設置した二次元バーコードを読み込むことで放電の手続きをとることができるほか、取り組み協力への御礼であるポイントを受けとることができます。



V2AEONMALL
V2イオンモール





AEON MALL
イオンモール堺北花田
オペレーション担当
橘 希美

お客さまが主体的に 環境負荷低減に取り組める 活動として定着させたい

V2AEON MALLはまだ十分にお客さまに認知されておらず、また利用にあたって多くのハードルがあることは事実です。しかし、サービスを利用したいというお客さまが、その場でWAON ポイントカードやアプリを取得してくださったことがあり、環境負荷低減の新しいアクションを実践したいという想いを持った方がいらっしゃるのだと実感することができました。
お客さまの主体的な取り組みがポイント付与という形で目に見えてお客さまに還元されるこの仕組みが普及し、環境負荷低減への想いを持った方がどんどん増えていってほしいと願っています。







VOICE ご利用者さまの声

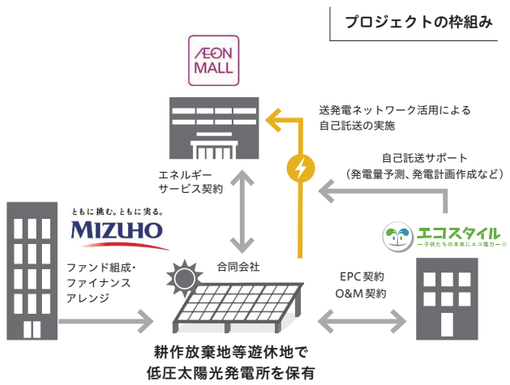
家庭からイオンモールに電気を送るという新しいサービスがおもしろいと感じました。放電量の数字だけではなく、CO_2削減量など具体的な価値をもっと可視化してくれるといいですね。

三者の協働だからこそ実現できた 太陽光発電の新しいスキーム

プロジェクトを通じて 前例のない再エネ調達を可能にする

全国のモールを100%地産地消の再生可能エネルギーで運営するための検討を重ねていたイオンモールとみずほグループ。同時期に、低圧・分散型太陽光発電の活用についてみずほグループに相談を持ちかけたエコスタイルとのニーズが合致し、協働体制がスタートしました。三者の連携によって、新たな再生可能エネルギーの調達手段であるオフサイト方式のコーポレートPPAを国内最大規模で実現することができました。

プロジェクトの枠組み



低圧・分散型太陽光発電
メガソーラーのような大規模開発を必要とせず、耕作放棄地などの遊休地を活用して発電。

オフサイト方式
電力を利用するモールから離れた場所（＝オフサイト）にある太陽光発電設備から電力を届ける方式。

コーポレートPPA
発電事業者と電力需要家が売買契約を締結し、再エネ電力を長期にわたって固定単価で調達する方法。

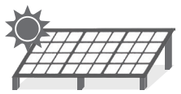
自己託送方式
遠隔地の太陽光発電設備で発電した電力を、電力小売を介さず一般配電事業者の送配電ネットワークを利用して需要地に送ること。

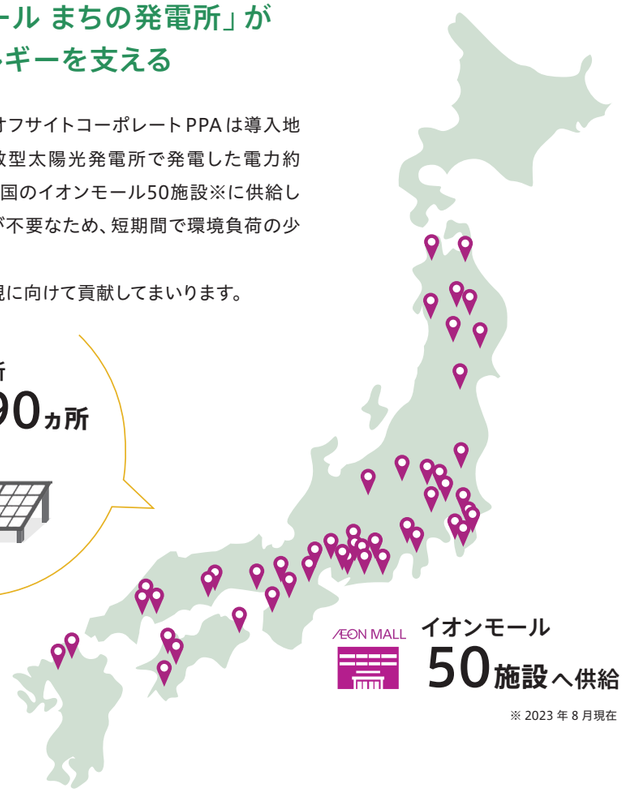
全国1,390ヵ所の「イオンモール まちの発電所」が イオンモール50施設のエネルギーを支える

2022年9月より開始した自己託送方式によるオフサイトコーポレートPPAは導入地域を拡大し、全国累計1,390ヵ所の低圧・分散型太陽光発電所で発電した電力約120MW（一般家庭の約30,000世帯分）を、全国のイオンモール50施設※に供給します。低圧・分散型太陽光発電は大規模開発が不要なため、短期間で環境負荷の少ない方法で脱炭素を実現しています。
今後も導入地域を広げ、地域の脱炭素社会実現に向けて貢献してまいります。



発電所
累計1,390ヵ所





イオンモール
50施設へ供給

※ 2023年8月現在

AEON MALL
地域サステナビリティ推進室
野島 成晃



100%地産地消の再エネ実現に向け、 ともに大きな一歩を踏み出せた

太陽光による発電所の開発にあたっては、日当たり、送配電線利用の可否、用途、電気を供給するための各電力会社および送配電事業社との協議など、専門的な知識に基づく対応が不可欠です。みずほグループさまやエコスタイルさまが進める方式であれば、全国規模で短時間での開発が可能なこと、耕作放棄地などの有効利用で社会問題解決につながること、メガソーラーなどの大規模開発と比較して環境負荷が少ないことが決め手となり、パートナーとして選定しました。取り組みを開始した際に新聞広告を掲出したところ、遊休地を発電所とする取り組みであることや積極的に発電を進めていることに対し、広く社会から好印象をもっていただけたと感じています。今後は、太陽光発電に限らない新たな電源確保を進めるとともに、営農型での太陽光発電開発も拡大して取り組んでいく予定です。これにより、電気とともに太陽光発電設備下で育った作物もモールで消費できるような仕組みを構築したいと考えています。







(株)みずほ銀行
情報通信・リテール第一部
藤本 健志さま

前例のない取り組みの困難も 三者の協働で乗り越えられた

イオンモールは、グローバルな潮流をとらえ、日本全体の脱炭素をけん引する素晴らしいチャレンジをされています。
今回の枠組みにおいて、みずほグループ各社はファイナンスアレンジの提供・スキーム構築などに関する助言・リスクマネーの供給の役割を担い、実務面の整理をおこなってイオンモールをサポートしました。これまでにない新たな枠組みであり、国内最大規模のコーポレートPPAであることから、設計段階から実務面までクリアすべき課題は多岐にわたりましたが、三者の協働で乗り越えることができました。この取り組みは社内外の方々からも好評の声をいただいています。



(株)エコスタイル
執行役員 経営戦略推進部長
岸田 光司さま

ひとつひとつは小規模な発電所も、 全国のモールを支える大きな力になる

当社ではこれまでも、低圧太陽光発電所を1,000㎡程度の耕作放棄地に開発してきました。
自己託送方式を活用した取り組みはイオンモールにとっても初めてとのことで、電力小売事業者が取り扱うような日常的になじみのないであろう制度もご理解いただく必要があったのですが、能動的に取り組んでいただきました。また、みずほグループにも、前例のないポートフォリオに対して一丸となってサポートいただくとともに、法務・技術の各デュー・ディリジェンスやアセットマネジメントの手法を迅速に確立いただきました。2022年5月の基本合意から、約半年後の11月30日時点で740基すべての発電所を運転開始させる計画を期日どおり短期間で達成できたことは、当社にとっても大きな成果となりました。

イオンモール まちの資源循環 Circular mall

モールからはじまる サーキュラーエコノミー

イオンモールは、モール内で発生する廃棄物の削減に取り組み、
再利用する仕組みを構築しています。
さらに、地域で集まるさまざまなモノを“資源”として循環させる
「サーキュラーモール」の実現をめざしています。
ここでは、お客さまや専門店、地域社会と共創しながら、
モールを起点に新たな循環の輪を生み出す取り組みをご紹介します。

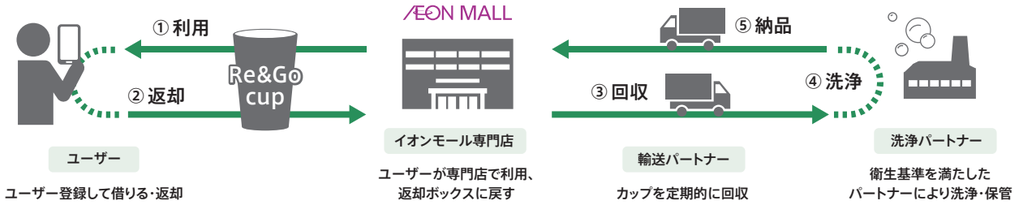


お客さま、専門店とともに取り組むシェアリングサービス



サーキュラーモールの構築をめざし、脱プラスチックの取り組みを推進しています。その一環として、2023年3月よりテイクアウト容器のシェアリングサービス「Re&Go」の実証実験をスタートしています。
使い捨てカップの代替としてリユースできるテイクアウト容器を、参加する専門店で提供。
回収・洗浄して再利用することで、容器ごみの削減に役立てていきます。

Re&Goの仕組み





AEON MALL
イオンモール Nagoya Noritake Garden
延澤 侑司（左）
BIZrium 名古屋
田邉 眞弓（右）

お客さまが何気なく参加できる取り組みを定着させたい

「Re&Go」は、誰もが気軽に資源の削減に貢献できる取り組みなのがメリットです。当モールはオフィス複合型なので、ワーカーの皆さまがスターバックス店舗で長時間過ごすことも多く、保温性のあるリユースタンブラーにメリットを感じていただけているようです。一方で、現在は返却場所が限られているという制約があります。モール内外でこの取り組みが広がり、各所で使用・返却できるようになれば、ユーザビリティも環境貢献も向上するものと考えています。



スターバックス コーヒー ジャパン（株）
名古屋オフィス
ディストリクトマネージャー
堀尾 勇輔さま（左）
名古屋則武新町１階店
ストアマネージャー
鈴木 伸哉さま（右）

リユースが当たり前の未来をともに築きたい

「Re & Go」によってリユースの選択肢が増えたこと、返却が容易であることなどが浸透し、サービスを利用する常連のお客さまも増えつつあります。店舗で働くパートナー（従業員）も廃棄物削減の意識や意欲が高まっています。イオンモールとスターバックスで協働して、地域全体でリユースが当たり前になる未来をめざしていきたいと考えています。



Re&Goの仕掛け人



NISSHA（株）
事業開発室
コーポレートマーケティング部
Re&Goグループ
プロジェクトサブリーダー
水嶋 宏介さま

取り組みの認知・関心を深め広めたい

「Re&Go」は、ITを活用し「容器を捨てずに返すからごみが出ない」サービスを通じて、容器ごみの排出削減のみならず、多種多様な事業者をつなぐことをめざして生まれました。商業とオフィスが融合したイオンモール Nagoya Noritake Garden は、時代を見据えたこれまでにない業態にチャレンジしていることを実感しています。現在はカップのみの展開ですが、今後はお弁当容器などバリエーションを増やし、たくさんのお客さまに利用いただきたいと考えています。

お客さまと専門店をアプリでつなぎ、プラスチック使用削減を促進

2023年1月より、イオンモールアプリ環境機能の第1弾として「NOカトラリーアクション」がスタートしました。参加専門店でカトラリー類（スプーン、フォーク、ストロー、カップ、カップのふた、お箸）を辞退されたお客さまに、環境活動への御礼として抽選でWAONポイントが当たるエコチケットをプレゼントします。ミスタードーナツさまは、この取り組みにいち早く参加。現在では、ほかにも多くの専門店に呼びかけ、取り組みを拡大しています。



● NOカトラリーアクションの流れ

01 周知する



イオンモールアプリやwebサイトを通じて、活動への参加をお客さまに呼びかける。

02 カトラリー類を辞退する



対象専門店でのテイクアウト、イートインでカトラリー類を辞退することを申し出ていただく。

03 エコチケット発行



イオンモールアプリで店頭のQRコードを読み込むとエコチケットが発行され、行動喚起につながる。

（株）ダスキン▶

ミスタードーナツ事業本部
運営部 運営企画室
大谷 朋幸さま



全国のモールにサービスを展開したい

使い捨てカトラリー使用を抑制するお手伝いを、イオンモールさんと一緒にできればと考えて参加しました。こうした企画は初めてのことだったので、対象の全国61店舗と担当エリアマネージャーには事前に周知徹底を図りました。
辞退されるお客さまはまだ少ないものの、実際に申し出があると「この企画をご存じなんだ！」とうれしい気持ちになります。この企画から、ミスタードーナツも環境に関する取り組みに積極的に参加していることが伝われば幸いです。
さらに参加する企業・専門店が増えれば、お客さまの認知・関心も高まると思いますので、今後に期待しています。

身近にできる脱プラスチックの取り組みを各モールで進めています

2019年10月より、イオンモール幕張新都心とイオンレイクタウンkazeにおいて、ストローの提供中止や紙ストローへの代替をおこなう実証実験を進めてまいりました。その成果をもとに、飲食店専門店に協力いただき、2020年3月から国内142モールでプラスチックストローの提供を終了しています。また、環境省が進める「プラスチック・スマート」にも参加。
これからも脱プラスチックへのシフトを加速させるために、「NOカトラリーアクション」の推進をはじめとした取り組みを、皆さまとともに積極的に推進していきます。

高校生と専門店がコラボし、地元の野菜を中心とした資源循環を創出

● 畑と専門店をめぐる循環のサイクル



産業教育フェアとは
専門学科・総合学科・特別支援学校で学ぶ生徒たちが、授業の一環でつくった農産物を販売したり作品展示をおこなう催しです。

AEON MALL▼

イオンモール津南

営業 丸田 凌也



営業 池山 綾香



コラボをきっかけに地域の食の可能性を広げる

イオンモール津南で開催した三重県立高等学校産業教育フェアをきっかけに、明野高校と専門店の龍神丸さまの交流が始まり、高校生が育てたお米などを使ったコラボメニューの開発・販売につながりました。さらに、モールに出店している飲食店から出る生ごみの堆肥化に向けて、明野高校とともに検討を開始。イオンモールが起点となって、地域の新しい循環の輪を生み出しています。



◀三重県立明野高等学校

教諭
西 恭平さま

循環型農業をともに展開していきたい

龍神丸さまとは2年前から限定メニューの開発・販売や宣伝用動画の作成、生徒の接客体験などの取り組みをしており、今回はメニューに使用する野菜類の栽培から一緒におこないたいという両者の想いが重なり、共同栽培に着手しました。コラボをきっかけに、生徒たちは開発に携わった商品を店頭で販売し目の前で食べていただくという、校内だけでは培えない経験ができました。やりがいや喜びを感じるとともに、就業意欲の向上にもつながったと思います。
本校で平時より取り組んでいる堆肥化の取り組みについても、持続可能な循環型農業の一環として体験でき、生徒たちは机上で学ぶよりもさらに深い理解を得ることができました。



◀（株）青龍

龍神丸イオンモール津南店
社長 青木 龍太さま

三者の協働が、大きな付加価値につながる

以前から、もっと食材を大切にしたい、ごみにせずに有効に活用したいと思っていました。今回のコラボを通して、フード業界に携わる者として生産者の苦労や想いを実際に体験する機会を得て、食材に対する愛情が深まりましたし、食糧問題や環境問題を身近にとらえることができるようになりました。
忙しい営業時間内に生ごみを集めるのは大変ですが、ほかの専門店の協力も得てスムーズに生ごみが集められるようになってきています。今後は自分たちが排出した野菜くずを堆肥化して栽培したこだわりの農作物をブランド展開していければと考えています。

まちの ACTION!

イオンモール まちのいきもの+ Nature mall

モールがつなぐ 地域と“いきもの”

イオンは1991年より、新しい店舗がオープンする際に、
地域の自然環境に最も適した、
土地本来の樹木をお客さまとともに植える植樹活動を実施してきました。
イオンモールでは植樹活動の継続に加えて、
それぞれの地域で生物多様性を保全するアクションを推進しています。
ここでは、生態系と環境に配慮したモールの実現にむけた
取り組みをご紹介します。



「イオン ふるさとの森づくり」とは？

イオンは1991年からお客さまと一緒に植樹活動を続けてきました。
「イオン ふるさとの森づくり」は地域のお客さまとともにその土地由来の苗木を植えるところから始まります。
また、イオングループでは植樹活動を通じてCO_2吸収量を増やし、脱炭素社会の実現をめざします。

森づくりのこだわり

1. 地域の自然環境に最も適した、その土地本来の樹木の植樹をおこなっています。
2. その土地本来の樹木を数十種類とりまぜて植えることで、成長を競い合わせる方法を取り入れています。
3. それぞれの地域のお客さまが主役となり、小さな苗木を1本1本植えていただきます。





いきもの調査で、森の理解をより深めています

お客さま・従業員により2021～2022年の2年間でのべ101店舗のいきもの調査をおこないました。
12,000件以上の投稿から1,318種ものいきものが見つかり、「イオンふるさとの森」が、地域の生物多様性価値を高める役割を担っていることが確認できました。

ABINC認証取得
（いきもの共生事業所® 認証）
累計19モール
※2023年3月現在

一般社団法人企業と生物多様性イニシアチブが開発した、いきもの共生事業所® 推進ガイドラインの考え方に沿って計画・管理され、かつ土地利用通信簿で基準点以上を満たし、当審査過程において認証された事業所のこと。

環境学習・体験の場としてビオトープを活用
～イオンモール多摩平の森 ～

イオンモール多摩平の森では、既存樹林を保存した緑地帯を整備するとともに、屋上ビオトープを導入しています。こうした取り組みが評価され、2015年にABINC認証（いきもの共生事業所®認証）を取得しました。
2022年には、一般社団法人ヤマネ・いきもの研究所が主催する「企業人のための環境セミナー2022」の会場として活用いただきました。遊歩道の見学やいきもの体験、ワークショップを通じて、参加者がいきものに触れ、ビオトープの意義を理解し、意見交換や交流を通じて新たな発見をする場となりました。

モール敷地内のビオトープで生物多様性を体感

●ビオトープの成り立ちや植生を学ぶ、遊歩道見学

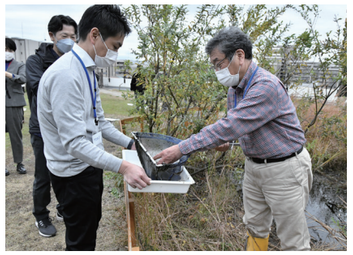




敷地面積の25%が緑地で、造成前の既存樹木のうちケヤキやイチョウなど約50本をそのままの姿で保存し、景観を守り続けています。こうした取り組みについて、実際に遊歩道を歩きながら担当者からの解説を聞き、豊かな森の姿を実感していただきました。

●地域の生態系への理解を深める、いきもの体験





4階「丘の原っぱ」に設けた屋上ビオトープは、生物多様性の豊かさを体験しながら学ぶことができる場となっています。実際に網で池のいきものを採取して数を調べたり、いきものに触れて生態を知る貴重な機会となりました。

VOICE 参加者さまの声

- 初めてヤゴに触りました。あごが飛び出すことを知りました。
- 網を使った採取で、150匹ものいきものを確認することができました。
- いきものの数、トンボの種類の多さなどから、生態系の豊かさを実感しました。




巣箱づくりを通して、お客さまとともに生物多様性を体感



AEON MALL
イオンモール新利府 北館
オペレーション担当
戸倉 悠介

自分自身が主体的に関わり アイデアや行動で 人と人をつなげていく

イオンモール新利府 北館では、2021年の大型リニューアルを機に生物多様性の取り組みが加速し、ABINC認証（いきもの共生事業所®認証）も取得しました。鳥の巣箱づくりワークショップは、利府町の豊かな自然環境を活かし、野鳥を保護するための長期的な取り組みとしてスタートしたものです。巣箱には南三陸の間伐材を使用しています。また、地域の自然に興味を持っていただくために、いきもの探しのイベントなども開催しています。普段の業務ではお客さまと一対一で接する機会が少ないのですが、直接お声を聞けたのは大切な経験となりました。生物多様性の取り組みを進める中で、自治体やYES工房さまをはじめ新しい連携が生まれ、イオンモールがまちの拠点として頼れる存在だと感じていただけるようになってうれしく感じています。これからも地域へのアプローチを進めるとともに、参加型イベントだけでなくモニタリングカメラを設置していきものを見守るなど、新しいチャレンジもできればと考えています。

一般社団法人
南三陸YES工房



代表理事
大森 丈広 さま

官民連携ならではの 広がりある活動で、 地域の自然の豊かさを多くの人に伝える

地域の木材を利用しながら、地域の方々とともに生物多様性の取り組みを進めるイオンモールの姿勢に共感を覚えています。一緒に取り組んだワークショップでは、小さなお子さんにもわかりやすい内容が喜ばれ、教育的価値の大きさを感じました。官民連携も推進できること、またお一人おひとりが表現したいことをお持ちのイオンモール従業員さまだからこそできる活動の数々は、大きな強みだと感じました。これからも、地域の団体や人々がつながるハブの機能としてイオンモールの取り組みが広がっていくことに大きな期待を寄せています。



ゼネラルマネージャー
中川 健太

環境を大切にするのはイオンモールの文化のひとつです。想いをもって活動してきた従業員一人ひとりの気持ちが、モール全体、そして地域の皆さまにもきっと届いたはずです！



オペレーションマネージャー
澤田 有希

イオン ふるさとの森づくりは、全国展開しているイオンモールならではの取り組みです。生物多様性は理解しづらいように感じられますが、実際に見て触れて、お客さまの興味・関心が高まったことを感じることができました。







Partner

イオンモールで働く一人ひとりが Life Designの主人公

イオンモールは日本のみならず、中国、アセアンにも展開しています。
今回は各地で活躍する若手従業員が集まり、イオンモールで働き成長することについての想いや
今後の期待について語り合いました。

-Talk Theme-

人を中心とした、より豊かな働き方へ











Question

**みなさんが
ウェルビーイングを
実感するのは
どんな場面ですか？**

インダ
私は、**自分の得意なことを発揮して働くこと**がウェルビーイングだと考えています。イオンモールは訪れる人や働く人に安全・安心を感じさせてくれますし、すべてのエリアで清潔感も保たれているので、ハピネスを感じる場だと思います。また、地域コミュニティに対しても常に革新的なアイデアを打ち出していて、文化・スポーツ支援などを通じて貴重な経験を積むこともできています。

タオ
日々の仕事の中で自分を磨き、将来に向けて努力することを大切にしています。環境活動に携わることで、計画立案時から環境影響やESG目標の達成にどのように効果があるかを考えるようにもなりました。今より上のポジションをめざしたいと思っていますが、一方で家族と過ごす時間が少ない時期もあったので、**家族のウェルビーイングや自分の心身の健康**も大切にしていきたいです。

▶▶▶ イオンモールで働くことは、成長すること。

ボレン
これまでに勤めた会社に比べて、イオンモールは就業規則がきちんと定められ、働きやすい組織だと感じています。清潔感のある職場や充実した福利厚生などもあり、会社に行きたくないと思ったことがありません。そのような環境下で、**カンボジアでの3号店ができた際には人材募集を通して多くの人に就業の機会を提供でき、仕事を通して達成感**も感じられました。

チン
私にとってウェルビーイングとは、**奮闘と達成**です。それらを通じて楽しみながら自分の価値を形にできれば、豊かで輝く人生につながると考えています。
2020年のモール開業準備段階から「開業1年以内にモール内の飲食業を商圏内でNo.1にする」という目標に取り組み、地域や専門店との連携を深めてきました。その実績が上司にも認められ、自分のスキルアップにもつながりました。

柳原
私は、**仕事とプライベートのバランス**がとれ、常にワクワクできる生活が理想です。休みの日にモールやほかの商業施設に足を運んだときに浮かんだアイデアを持ち帰って職場で実現する、というサイクルがうまく回ると楽しいですね。知り合った業者の方にお声がけをしてイベントを開催し、たくさんのお客さまが来場されて「楽しいイベントだった」とコメントをいただけたときなども、大きな喜びを感じます。


座談会は2023年5月にオンラインで開催しました



Question

**モチベーションや
働きがいにつながると
感じる制度や施策は
ありますか？**

インダ
各階層で必要に応じた教育プログラムが豊富に用意されていて、受講することで自分が成長でき、それが会社のためにもなると感じます。各従業員がキャリアパスを考えられるよう、機会が提供されているのもよい点です。イオンモールはグローバルに拠点があるので、日本語や英語に苦労している従業員をサポートするようなプログラムもあればいいですね。

タオ
社内公募制度は、自身の経験を活かせる制度です。新たなスキルの獲得を促し、人材の多様化にもつながる仕組みだと感じます。今はベトナム国内でのポジション変更のみですが、ほかの国・地域にも異動ができるようになれば、文化交流や多様性が促進され、新しいアイデア創出にもつながるのではないでしょうか。

▶▶▶ 各国の特性、状況に合わせたサポート制度が充実。

ボレン
イオンモールでは、入社して間もないころからビジネスマナーや社内ルールについての教育が行き届いていますし、法規制の順守も徹底して呼びかけています。
職場を出てもイオンモールの一員として節度ある行動をとれることが、みんながともに成長していく基盤になっていると思います。

チン
研修制度だけでなく、事業管理制度も他社より先進的で成熟していますね。職能別の組織で、上司から迅速かつ的確に指示を受けられるのでコミュニケーションがとりやすく、また専門店にも依頼をしやすいと感じています。こうした制度があるからこそ、各スタッフが効率的に業務にあたれると実感しています。

柳原
3年次にグローバルマインドセット研修を受講した際、**多文化とのコミュニケーションにおけるマインドセットなどを学べて**非常に有効だと感じました。受講後のアンケートに「2年次から参加できるとなおよい」と回答したところ、今年からそのように制度が変わっていて、教育部門の柔軟な対応に驚きましたね。







地域に暮らし、地域で働く専門店従業員とともにめざす成長

イオンモールでは、モールごとにイオン同友店会が組織されています。専門店企業とともに、イオン同友店会の活動を通じたさまざまな取り組みをおこなっています。

地域とつながる分科会活動

専門店企業の皆さまと一緒に地域とのつながりを深めていく活動を新たにスタートしました。地域の持続可能性や魅力の創出、課題解決に向けた取り組みとして、分科会活動を進めています。

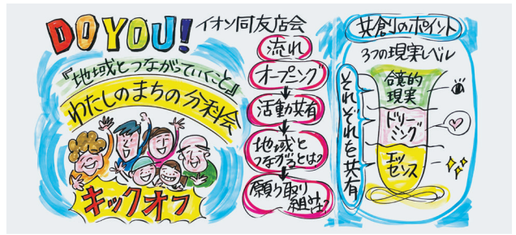
イオン同友店会とは

イオングループの店舗・ショッピングセンターへ出店している専門店企業を会員とした組織です。「同友店」とは、同じ志をもつパートナーのこと。同友店会は、会員からの会費で運営しており、現場で働く皆さまへwebサイトでの学習コンテンツの提供やロールプレイング大会の開催による研修機会の提供、売上コンテスト、交流会開催などのサポートを行っています。

● **分科会活動を通じて、一人ひとりの意見を地域の課題解決に反映**



イオンモールに出店の専門店企業9社（15名）とともに
地域とつながる分科会を発足しました。



地域とつながる分科会では、グラフィックファシリテーションを採用。
言葉や想いなどをグラフィックで「見える化」し、共感と相互理解を促します。



AEON MALL

営業統括部
同友店統括部
全国イオン同友店会事務局
小柳 陽平

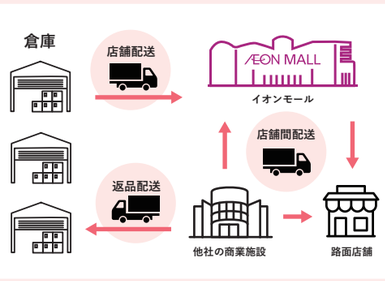
一社ではできないことも、同友店会のつながりを通じて実現

時代とともに変化する地域を今一度見つめ直し、専門店企業の皆さまとともに地域とのつながりを深めていく活動を進めています。地域課題の解決や持続可能な社会の実現の一助となること、さらにイオンモールと専門店企業のビジネス自体もサステナブルになることをめざしています。

TOPICS

専門店企業の物流課題を解決する共同配送サービスの開始

ドライバー不足、小口多頻度化、燃料費の増加など、物流課題の深刻化が進む中、パートナーである専門店企業の皆さまへの価値提供として、共同配送サービスを展開しています。
共同配送サービスとは、専門店企業の物流拠点から、イオンモール、他社商業施設、路面店等の店舗への配送や、店舗間配送、返品配送を当社が担うもので、必要なときに必要な分だけご利用いただけるオンデマンド倉庫サービスもご用意しています。
将来的には梱包資材やハンガーなどの共通化により、経済価値と環境価値の両立を実現させたいと考えています。



COLUMN

海外に広がる ハートフル・サステナブル

海外のイオンモールにおいても、お客さま、地域社会、パートナー企業や多くのステークホルダーとともによりよい社会をめざして、ハートフル・サステナブルの取り組みを実施しています。各国・地域の状況に合わせた活動を、それぞれのモールの従業員が中心となって企画・実践しています。

イオンモール常熟新区（中国）

子どもたちが多様な業界の仕事を見学

少子高齢化が進む中、日ごろから子どもたちにさまざまな体験を通じた知識を学んでほしいという想いから、「子ども見学クラブ」を開催。環境保護・科学技術・教育・医療などの現場を訪問することで、多岐にわたる業界の仕事の流れや専門知識に触れるきっかけとなりました。





各企業などの協力のもと、子どもたちや保護者との交流をおこなうことで、地域に新しい価値を提供でき、イオンモールでの仕事が楽しく有意義であると再発見できました。



イオンモール常熟新区
営業マネージャー
リー・イー
李 毅

イオンモール ビンズオンキャナリー（ベトナム）

運動の機会を増やすヨガデーの開催

コロナ禍以降に高まった健康増進・ストレス軽減ニーズに対応すべく、スポーツ専門店・地域の女性団体と協力し、モールを会場としたヨガデーを開催。お客さま150名が参加し、エキスパートによるヨガセッションや無料でのヨガレッスン、脂肪・筋肉量測定などをおこないました。





地域にとって必要な活動が実現できたこと、参加者や観客の幸せそうな姿を見ることで、この上ない喜びを感じました。



Marketing Senior Executive
グエン・ホアン・クアン・ズイ
Nguyen Hoang Quang Duy

イオンモール カンボジア（カンボジア）

SDGsムービーによる啓発活動

カンボジアではまだSDGsに関する知識が社会に浸透していないため、SDGsの重要性を伝える取り組みを進めています。イオンモールがこれまでにおこなってきたSDGsに貢献する活動の情報を集め、それをもとにソーシャルコンパスチーム※と協力してSDGsムービーを作成しました。

※ カンボジアで設立された、アートとデザインを通じて社会課題を解決するクリエイターによるデザイン・アート集団。



「カンボジアの日常を新しい可能性で満たす」というミッションにもとづき、持続可能な未来のためにこれからも努力していきます。



AEONMALL（CAMBODIA）CO.,LTD
Corporate Planning Section
Deputy Manager
リム・スレイパウ
Lim Sreypov

イオンモール BSD CITY（インドネシア）

アースデーの成果を子どもたちのために活用

毎年アースデーに取り組んでおり、2022年は、お客さまが持ち寄ったまだ着られる衣類や本を店頭で回収しました。3日間で集まったたくさんの衣類と本および寄付金を、Maktabul Aitam孤児院に暮らす71人の子どもたちのために寄贈しました。





小さな一歩から始められ、大きな影響を与えることができる取り組みについてお客さまに伝え、参加を促していきたいです。



イオンモール BSD CITY
Advertising & Promotion Staff
フィトリア・プルナマ・サリ
Fitria Purnama Sari

地域の生活者と向き合う 各地のLife Design Producer

ハートフル・サステナブル
ひと、社会、地球の未来をいっつでも。

イオンモールでは、地域・社会が抱える課題を解決し、地域活性化につながる取り組みを各モールで立案・実施する「ハートフル・サステナブル企画」を実施しています。

イオン SENRITO 専門館・オトカリテ（大阪）



藤野 良太（オトカリテ）　藤本 舞（イオン SENRITO 専門館）

「せんちゅう子育てウィークス」から広がる地域連携

転勤者の多いまちで「つながり」と暮らしやすさを高めるため、両館で子育て支援施策に力を入れていきます！

イオンモールりんくう泉南（大阪）

海岸の環境整備を通じたウミガメを待つビーチづくり

海岸へ不法投棄される廃棄物を削減し、環境を整え、ウミガメが毎年産卵に訪れるビーチづくりに貢献します。



奥村 颯

鶴和 桃花　中尾 美月

イオンモール姫路リバーシティー（兵庫）

飾磨小学校6年生生徒との和食学習を通じて学ぶSDGs

子どもたちの手によって豊かな未来を実現するため、イオンモールとしてサポートできることを全力でおこなっていきます！



新堀 史佳　山崎 雄一郎

イオン明石ショッピングセンター（兵庫）

海と海洋資源について学び行動する機会を

明石市で第47回「全国豊かな海づくり大会」が開催されるにあたり、さまざまな地域団体と協働したイベントを開催しました。



山田 美千代

河原町オーパ（京都）

当事者も非当事者もともに理解を深められるように

オープンにしづらい生理の悩みについて理解を深め、気軽に話せるきっかけをつくり、ウェルネスの推進を図りました。



川又 美奈子　柴田 真実

THE OUTLETS HIROSHIMA（広島）

中国5県の観光拠点の活性化をめざして

国内観光需要の獲得をめざして周辺自治体・観光地と連携し、中国エリアの観光産業の活性化を図ります。



長島 実穂

イオンモール広島祇園（広島）

“地産地消”と“3-R”を、フェアを通しておいしく発信！

JA全農ひろしまさまとタイアップし、地産地消の促進に向けて広島県内で採れた新鮮な食材を飲食店にて販売しました。



久保田 育実

イオンモール宇城（熊本）

再利用という選択を楽しく学ぶ機会を子どもたちに

「要らないから捨てる」以外の選択肢があること学ぶ場としてリアルなモールならではの価値の最大化を追求していきます。



東城 裕也

イオンモール新居浜（愛媛）

子どもたちのアイデアで特産品をヒットスイーツに！

地域の子どもたちから七福芋を用いた商品アイデアを募集し、地元企業さまとともに商品開発を実現させました。



石田 圭汰朗　平山 豊

イオンモールいわき小名浜（福島）

次世代の子どもたちにきれいな海を残したい

モールにとって身近な存在である海をきれいな姿で次世代に残すための活動を、地域団体とともに取り組みました。



進藤 由紀　賀川 久臣治　若月 沙織

イオンモール下田（青森）

安心安全をお届けする地域の防災拠点をめざして

災害時の防災知識の発信の場となることで、地域になくてはならない存在をめざします！



関野 雅士　小林 和佳　勝田 温紀

イオンモール松本（長野）

廃棄物をアートに！松本市の3Rを楽しく学ぶ！

「一人あたりのごみ排出量が県内1位」という松本市の課題を知り、3R について楽しく伝えられたらと思い企画しました。



田岡 くるみ

イオンモール高崎（群馬）

廃棄物削減でWIN-WIN-WIN

モールから排出される廃棄物を削減し、市の廃棄物処理場の容量不足問題の解決や循環型社会の構築に貢献します。



賀 銘章

イオンモール白山（石川）

住民や観光客のジオパークへの認知を高め、愛着を醸成！

白山手取川ジオパークの「世界ジオパーク認定」をめざし、当モールを舞台にジオパークの認知度を高める共創の取り組みを実施しました。



松尾 有希　松久 和人　石本 萌恵

イオンモール多摩平の森（東京）

日野市をつくる5つの誠モリモリ実行プロジェクト

日野市が掲げる「5つの誠」（観る・住む・育つ・味わう・創る）の観点から、地元の魅力を、イオンモールからモリモリ発信しました！



小山 栞　丸山 結以

川口 太一

イオンモール大垣（岐阜）

地域と一緒に汗をかきながら日々課題解決に挑戦！

地域企業、団体、行政との関わりの中で見えてきたさまざまな課題について、地域と一緒に解決に向けて取り組んでいます！



北市 博子　長崎 靖美　小倉 秀一

千葉事業部（千葉）

スポーツイベントで、子どもたちに挑戦の楽しさを届けたい！

お客さまと地域団体・行政などが、イオンモールを通じてつながる機会を提供し続けることで、地域とモールの発展をめざします！



叢 林　高橋 里緒

イオンモール東浦（愛知）

行政の健康づくり目標にも合致した活動を継続

主要顧客層である子育てファミリーの運動機会を創出する企画を、地域・専門店の皆さまとともに年間を通して実施しました。



竹内 直矢

イオンモール座間（神奈川）

座間市の小・中学生に環境と向き合う機会を創出！

処理施設の残余容量が上限に近づいた背景から、ごみ減量化・資源化推進の啓発機会をイオンモールが提供。課題へ一緒に取り組みます。



安田 ちひろ

イオンモール銚子（千葉）

千葉科学大学の学生と一緒に、銚子市を盛り上げる！

体験講義やサークル活動をイオンモールで開催。学生の活躍の場の提供と、銚子市の魅力を高め、人口流出抑制をめざします！



平野 優子　金谷 淳子　宮内 洋美
荒木 公悠　野村 正太郎

「ハートフル・サステナブル企画」受賞プロジェクト紹介

イオンモールむさし村山

たいかん・たいけん プロジェクト

モールの屋外広場を活用した大規模な地域イベントを2022年6月から11月にかけて9回開催。市民祭を支援・PRする「つむぐ夏まつり」や、地域の子どもたちが新しいスポーツに触れられる「むらやまスポーツフェスタ」などで、地域の活性化をめざしました。



AEON MALL

天池 真由（左）
河野 華央（右）

地域に積極的に関わる姿勢をご理解いただけました

商工会や青年会議所を通じて、武蔵村山市内・近隣地域の団体・企業・スポーツクラブチームなどへつないでいただき、子どもたちがプロ選手と一緒にスポーツをしたり、新しい競技にチャレンジする機会を提供しました。今後も活動を継続し、地域活性化につなげていきたいです。



つむぐ夏まつり





むらやまスポーツフェスタ



◀ （株）ムラサキスポーツ

イオンモールむさし村山店
店長 野村 光広さま

地域の子どもたちの喜びを実感

当社は企業理念のひとつに「青少年の育成、スポーツ文化に貢献する」を掲げています。「むらやまスポーツフェスタ」は、当社の強みであるスケートボードを通してスポーツの体験や楽しみを感じてもらえる機会として、非常に共感できるプロジェクトです。定期開催でお客さまからの認知が上がり、提案できることも増えて、集客にもつながっていると感じます。



◀ 武蔵村山市民まつり実行委員会

実行委員長
波多野 克典さま

深い関係構築で「つながる」を実践

武蔵村山市と市民が一体となってまちを盛り上げる「村山デエダラまつり」は、コロナ禍を経て2022年に3年ぶりの開催となりました。そのプレイベントである「つむぐ夏まつり」でイオンモールと緊密に関係を築き、本音で協議し合えたことや、会場や周辺渋滞、コロナ対策などさまざまな潜在的リスクを検証できたことは、本番の祭に向けて大きな力になったと実感しています。

イオンモール名古屋茶屋

食（フード）フェスタ2022

モールが立地する地域で農業を営むレイアファームをはじめとするさまざまな団体の農作物を活用して地域の魅力を発信するとともに、南陽高校の授業の一環として専門店3店舗の商品開発・販売促進を実施、直販市「茶屋市場」での販売をおこないました。



AEON MALL

営業担当 崎原 有姫

関係者間の距離が縮まりました

関係者が共通して「地域を盛り上げたい」という意識をもっていたことで実現にいたったと感じます。高校の授業では、専門店の店長も交えて会話する時間を増やしました。また、農園に直接赴いてご相談させていただいたことがきっかけで、プチ収穫体験会の企画も生まれました。







▼ 南陽高校の生徒たちがアイデアを出し合い、開発から販売までのプロセスを体験しました。



◀ 愛知県立南陽高等学校

校長 加納 澄江さま

生徒の学びを深める機会に

生徒が、学校の中だけでは体験できない人と人との関わりを感じながら学ぶことができる活動に共感しています。多くの生徒が自分たちの学びを地域に還元し、専門店の売上や地域の活性化に貢献できると実感することで、視野を広げ、地域で活躍する社会人としての基礎力を身につけられると感じました。



◀ レイアファーム

代表 石井 雅樹さま

Z世代の認知度向上を実感

Z世代に都市型農業のリアルな生産～流通を知ってもらえる機会となり、今後の地産地消や地域経済の活性化・発展につながる取り組みだと思いました。生産者単体では難しい専門店とのコラボなども実施でき、生産物の購入拡大や、付加価値による知名度・収益性の向上に大きなメリットがあると感じました。

イオンモール×イオン九州（琉球）×JA

九州をいただきます！ やさいFES



九州・沖縄に立地する16のイオンモールで、地元JAの野菜の販売や飲食店での限定メニュー提供、お惣菜コーナーでのPRなどを通じて、九州野菜のおいしさをお伝えしました。



AEON MALL

九州・沖縄事業部
曽根 弘之



九州野菜の価値を広く伝えます

お客さまに地元野菜の魅力を発信するため、イオン九州さま、専門店さま、JAさまと協業し、地元野菜の拡販、限定メニューの販売、体験型イベントを開催。地域における農業振興に貢献することをめざしました。

イオンモールの重要課題(マテリアリティ)

地域の皆さまとともに“暮らしの未来”をつくるLife Designの取り組みは、
イオンモールの重要課題(マテリアリティ)を根底としています。

	なぜ重要と考えるか	イオンモールのアプローチ	2030年にめざす姿(KPI)	2050年にめざす姿(KGI)	2022年度までの進捗
地域・社会インフラ開発 ● 持続可能かつレジリエントなインフラ開発 ● 生産消費形態	地域への持続可能かつレジリエントなインフラ開発および持続可能な生産消費の促進は流通グループの不動産サービス業をおこなう当社にとって重要な価値創造の根幹であると認識しています。	●地域に暮らす人々が安全・安心を感じることができる社会実現に向け地方自治体と連携し、防災拠点の機能をより強化します。 ●廃棄物・資源についてはサーキュラーエコノミーの考え方を運営に取り入れ、地域における循環型経済圏の構築に取り組んでいきます。	●BCP体制の強化策としての国内全モール防災拠点化 ●地方自治体との防災協定締結割合 ●エシカル消費の推進 グリーン購入率 ●脱プラスチックの取り組み推進	●地域の方が常に安全・安心を感じることのできる社会 ●適切な生産消費により地球環境への影響が限りなくゼロに近い社会	●防災拠点数 158モール中 43モール ●防災協定締結数 158モール中 137モール ●年間グリーン購入率：42%
地域とのつながり ● 文化の保存・継承 ● 少子化・高齢化社会	アジアで事業を展開する当社にとって、各地域の文化の継承および地域に住むすべての人々にとって快適に暮らせる社会の実現は重要な価値創造の根幹にあたると認識しています。	●地域に暮らす人々が快適にすごせる社会実現のため、地域文化の継承を支えるプラットフォームの構築と地域コミュニティの発展を推進します。	●伝統・文化イベントの積極的開催と海外含む他地域への展開 ●子ども向けサービスの充実 ●認知症サポーター数	●文化継承のプラットフォームが構築されている社会 ●キッズ、シニア含むすべての人が快適に暮らせる社会	●イオンワンパーセントクラブ拠出金額 303,700千円/年を活用し、全国の各モールで伝統・文化イベントを開催。 ●海外モールにて、日本文化の魅力をPRするイベントを随時開催。 ●認知症サポーター数：838名
環境 ● 気候変動・地球温暖化 ● 生物多様性・資源の保護	地球温暖化の進行に伴う自然災害の激甚化など、環境問題による持続可能性に及ぼす影響が顕在化しており、環境対策は企業も含めて世界が一丸となって取り組むべき課題となっています。そのため当社は事業活動における環境負荷の低減と持続可能な社会に向けた環境対策に取り組みます。	●「イオン脱炭素ビジョン」に基づき、2040年までに国内事業におけるCO_2排出などの総量をゼロにする取り組みを進めてまいります。 ●さまざまないきものが共生する豊かな未来をめざすため、緑あふれる環境に配慮した施設づくりをおこないます。	●EV充電器設置の拡大 EV充電器設置台数 ●再生可能エネルギー創出による年間CO_2排出量総量35%削減 ●地域住民、専門店向け環境啓蒙取り組みの強化 ●eco検定の取得率100% ●ABINC認証(いきもの共生事業所®)の取得モール数 ● リサイクル率70%の達成 ※ サーマルリサイクル除く	●脱炭素が達成された社会 ● 地域全体で環境配慮に取り組む社会 ●環境に配慮し自然と調和した社会	●EV充電器設置台数 2,043基(国内外) ●CO_2フリー電力調達比率 18.9%(国内直営モール) ●eco検定の取得率：82.2% ●ABINC認証(いきもの共生事業所®) 取得モール数:15モール ●年間リサイクル率：56.9%
ダイバーシティ・働き方改革 ● 健康と福祉 ● 多様性・働き方	人材こそが持続的に成長していくための最大の経営資源と認識しています。 従業員が健康で自分の能力を発揮して、成長し続ける多様性を強みとする組織・人材開発を重視しています。	●当社のビジネスは、さまざまなステークホルダーと地域の課題を解決することであり、その実現をかなえる「人材」こそが持続的な成長を果たすための最重要資本であるという認識のもと、人材ビジョン・組織ビジョンを策定し、その実現に向けた施策を実行しています。	●健康的なライフスタイルの提案 ●女性管理職比率 ●男性育児休暇取得率100% ●グローバルで活躍する人材育成の推進	●すべての方が心身ともに健康でいられる社会 ●人種、国籍、年齢、性別、場所に関わらずすべての人に均等な機会が与えられている社会	●2022年8月、千葉大学と共同で、イオンモールウォーキングと健康に関する研究を実施。 ●2023年3月、中国全モールで健康的なライフスタイルをご提案するイベントを開催。 ●女性管理職比率：20.4% ●男性育児休暇取得率：100%
責任あるビジネスの推進 ● 人権 ● 贈収賄	イオンの人権基本方針に基づき、人権を尊重し、性別や国籍に関わりなく企業の発展に参画できる組織の実現およびサプライチェーンの実現をめざします。	●2021年より人権デュー・ディリジェンスを開始、人権リスク低減に取り組む体制の構築をめざします。	●人権デュー・ディリジェンスのプロセスの設定・導入 ●人権教育研修100%受講 ●贈賄防止基本規則の順守に向けた贈賄教育・啓発の実施 ●就業規則内、収賄防止条項の継続的順守 ●贈賄防止基本規則の順守体制の継続的な見直しと贈賄防止基本規則の順守状況の年1回以上の代表取締役社長への報告及び是正の徹底	●すべての人に対して人権が尊重されている社会 ●インシデント発生件数0件	●ハラスメント防止対策研修受講率:99% ●ビジネスと人権研修受講率:88% ●贈賄防止教育を実施。 (日本・中国・アセアン各社すべて受講100%) ●贈賄防止基本規則順守状況については、コンプライアンス委員会に報告し、当委員会より年1回以上代表取締役社長へ報告をおこない継続的な見直しと是正を実施。

「Life Design Report 2023」を
お読みいただいた皆さまへ



イオンモール（株）
代表取締役社長
岩村 康次

現代社会は変化のスピードが速く、地域ごとに抱える課題が多様化・複雑化しています。

またコロナ禍を経て、お客さまの日常生活における価値観やライフスタイルは大きく変化しました。

そうした変化の中で、今後さらにイオンモールが地域に必要とされていくためにはどうしたらよいでしょうか？

その答えは、すべての国・地域において、私たちと同じ課題意識と、それを解決したいという「志」をもつ方々とともに、新たな解決策となる営みを「共創」していくことだと考えています。

私たちは、地域、パートナー企業と「連携」を図り、共感を醸成し、ひとつながり、深め、広げる企業になることをめざします。これからも、新しい価値の創造に向けて、皆さまとともに未来への歩みを続けさせていただければ幸いです。

会社概要

社名	イオンモール株式会社
設立	1911年（明治44年）11月
資本金	42,381百万円（2023年2月末現在）
事業内容	大規模地域開発及びショッピングモール開発と運営 不動産売買・賃貸・仲介　［国土交通大臣（4）第7682号］
従業員数	3,801名（2023年2月末現在）

イオンモールのサステナビリティに関するさらに詳しい情報

本レポートでご紹介した以外にも、イオンモールはESG・サステナビリティに関するさまざまな取り組みをおこなっています。以下の媒体でより詳しい情報をご覧いただけます。

IR情報　https://www.aeonmall.com/ir/

統合報告書



中長期的な企業価値向上への取り組みをいっそう深くご理解いただくために、すべてのステークホルダーの皆さまを対象とした「統合報告書」を発行しています。



ESGデータブック

ISO26000に対応するESG活動の情報開示を目的として、「ESGデータブック」で非財務情報を網羅的に開示しています。



サステナビリティサイト

https://www.aeonmall.com/sustainability/

イオンモールのサステナビリティについて網羅的にご紹介しています。新着情報やトピックスなどを適宜更新しており、最新の活動についてご覧いただけます。

ひとも、
まちも、
きらきら。

イオンモール株式会社

〒261-8539 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1
TEL: 043-212-6348
https://www.aeonmall.com

本冊子は適切に管理された森林資源および管理原材料を使用した紙を用い、植物油インキを使用するとともに、印刷時に有害な廃液が出ない「水なし印刷」で印刷しています。

2023.10